宗祖親鸞聖人に遇う
―親鸞聖人のお手紙から―

晩年のお手紙

「親鸞聖人のお手紙」と申しましても、なかなか全文を読まれる機会は少ないかと思います。京都におられた聖人が関東の御同行の生活のなかでおきる様々な問題にお答えになったお手紙です。そのなかで年号のわかる最晩年のお手紙。八十八歳の時のお手紙についてお話いたします。

生死無常のことわり

『なによりも、こぞことし、老少男女おおくのひとびとのしにあいて候うらんことこそ、あわれにそうらえ。ただし、生死無常のことわり、くわしく如来のときおかせおわせましてそうろうえは、おどろきおぼしめすべからずそうろう。』

去年、今年とたくさんの人がお亡くなりになったという書き出しです。この年に、おそらく飢えなどで多くの方が死んでいかれたことがあったのでしょうが、私は伊勢湾台風を経験しており、姉を亡くしております。そのことは、私が仏教に縁をもつ大きなきっかけになったのですが、このお手紙を初めて読んだときは、なんという厳しい言葉かと感じました。

「生死無常のことわり」これはお釈迦様の言葉をさすと思います。生まれたかぎり必ず死ぬ。これは変わらない真理です。坑いようがありません。これは如来が説きおかれたことであるから、おどろく必要はないということです。

皆さんはどうでしょうか。私は、姉を亡くした時はおどろきました。体が病弱だったとはいえ、まさかこんなにも早く命終えるとは思いませんでした。家が床上浸水し、家財は流されて何もない状態でした。そのようななかで床下を見ると貯金箱から十円玉と五円玉があり、拾って持っていたところに姉が「水が飲みたい」といいました。当然、水などありません。持っていたお金で、サイダーを買って姉に飲ませました。そしてその夜に姉が亡くなりました。昼間にあんなに喜んでサイダーを飲んでいたのに、なぜ突然に死んでいったのか。なげきました。

臨終の善悪をばもうさず

生まれて老いて病んで死んでいくという自然な経過とは違い、天変地変あるいは交通事故などで亡くなるという場合「前生の種まきが悪かった」などという人もいます。情けないと思いつつ、そういう言葉に引きつけられる弱さがあります。死ぬと思っていない人が突然なくなる。何が合理的な解釈が欲しくなるのです。しかし親鸞聖人はお手紙の中で「臨終の善悪をばもうさず」といいます。どのような死に方であろうとも阿弥陀さまには関係ない。なぜなら、弥陀の本願は全ての人を救うのであり、それを信ずる以外に道はないといいます。だから「臨終の沙汰をしない」というその言葉には、死際に善悪にとらわれる私たちの弱さに対する親鸞聖人の温かさがあります。この姿勢がすべてを一貫しておられます。

已が身にひきくらべ

人為的に人が殺されていくということに対しては、仏教はどのようにいっているのか。例えば、法句経（ダンマ・パダ）という経典には『已が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ』という言葉があります。これは、自分は殺されたくない。だから、他者を殺してはならないし、殺させてもならないということです。わが身に引きあてていかなくては、なぜ殺してはいけないのかという問に答えができません。私も死ぬというところから始っていかなくては、全部他人事になります。

私もまた死ぬる存在である、だからこそ、今生きている一瞬一刻を本当に大切にしていかなければならないのです。

平成23年2月14日
真宗講座講話より抜粋

■講師プロフィール
尾畑 文正師（おばた ぶんしょう）
1947年（昭和22）年生まれ
三重県員弁組・泉稱寺住職
大谷大学大学院博士課程満期退学
現在　同朋大学学長
著書
「親鸞への旅」
「歎異抄に学ぶ」
その他多数

赤羽別院報 第27号
発行所
真宗大谷派
赤羽別院 親宣寺
発行人
輪番 浅野 怜
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・Fax（0563）72－2308

春季彼岸会・報徳会厳修

本多師による法話

春季彼岸会

赤羽別院では、去る3月20～22の三日間春季彼岸法要が厳修されました。

お彼岸とは、浄土に憧れる私たちの心の拠りどころであり、二十四節気の春分と秋分の二回、太陽が真西に沈むとき、浄土の門が開かれるという言い伝えを信じて、今でもこの季節には多くの寺院でお彼岸の法要が行われています。

三日間とも多くの方々の参詣があり、賑やか且つ厳かな雰囲気のなかで法要が進められました。

初日は安休寺・雲英真人師、中日は福正寺・本多友明師、最終日には蓮成寺・青木馨師より、それぞれの語り口で時節にあった法話を戴きました。

今年の彼岸会は、3月11日に東北・関東を襲った東日本大震災が、家屋・家財ばかりか多くの方々の尊い生命を奪ったうえに、原子力発電の将来に暗雲をもたらす、天災とも人災ともいえる被害を受けた直後だけに、多くのことを考えさせていただく、今を向きあえる法要となりました。

（本多記）

報徳会

平成23年4月11日報徳会が厳修され、講師には安楽寺の伊奈恵祐師をお迎え致しました。

「報徳会」とは法義相続、即ち、教えを尋ね次世代の人々に伝え続けること、また、念仏の道場である別院護持に励まれた方々のお徳を讃えてお勤めし、聞法していく法要です。

伊奈師の法話では、この度の東日本大震災により、真宗本廟で勤められる宗祖親鸞聖人の七五〇回御遠忌第一期法要を「被災者支援の集い」に改めて厳修されたことにふれられました。

法要でなくなったことでお参りをやめられた方もみえますが、本山のご開山のご真影の前に座り手を合わせることに変わりはないとお参りされた方々はそれぞれ真宗門徒として『正信偈』をお勤めされたことが何よりの慶びですと話されました。

最後に、師が団体参拝された御門徒さんに伺った言の葉を披露されました。『常の日暮らしを問う、場と時を、戴きなおしました。』

（稲垣記）

伊奈師による法話

別院行事のご案内

夏の御文（げのおふみ）
7月15日（金）午前10時・午後1時
法話　第13組　教榮寺　間島　亨師

赤羽別院崇敬区域世話方会
7月15日（金）午後1時・夏の御文終了後

暁天講座（ぎょうてんこうざ）
8月25日（木）午前6時
講師　豊田市　守網寺　渡邊　晃純師
8月26日（金）午前6時
講師　桑名市　西恩寺　池田　真師

門徒会研修会（もんとかいけんしゅうかい）
8月25日（木）午後2時
講題　未定
講師　桑名市　西恩寺　池田　真師

秋季彼岸会（しゅうきひがんえ）
9月22日（木）午後1時
講師　第8組　宿縁寺　織田　慶雄師
9月23日（金）午後1時
講師　第12組　了願寺　藤谷　信雄師
9月24日（土）午後1時
講師　第12組　本誓寺　足利　憲師

法式研修会（ほうしきけんしゅうかい）
10月上旬　詳細未定

報恩講（ほうおんこう）
10月14日（金）
初逮夜　午後1時
法話　第13組　明榮寺　小谷　香示師
10月15日（土）
日中　午前10時
逮夜　午後1時
法話　第6組　専覺寺　楠　理見師
10月16日（日）
結願晨朝　午前10時
結願日中　午後1時
法話　第7組　淨專寺　安藤　傳融師
15・16日はお斎の用意をしております。
お誘い合わせのうえお詣り下さい。

晨朝法話（じんじょうほうわ）
7月13日（水）第13組　教榮寺　間島　亨師
7月28日（木）第13組　慶徳寺　法輪　哲師
8月13日（土）第14組　光專寺　加藤　要子師
8月28日（日）第14組　西方寺　中根　壮治師
9月13日（火）第8組　安楽寺　祐諦師
9月28日（水）第8組　順覚寺　山田　智永師

赤羽地域教化センターの新体制確立！

センター長・浅野　怜　師
主　幹・三浦真教　師　就　任

平成20年に創設された赤羽地域教化センターは、本年3月末を以ってスタッフ全員がその任期を了えるに至りましたが、この度、センター長の浅野怜師を重任、主幹に三浦真教師を迎え、その活動が再開されました。

設立当初は戸惑いもありその活動は停滞気味の感がありましたが、スタッフ全員が中心となって取り組んだ宗祖の七五〇回御遠忌お待ち受け法要で素晴しい盛り上りをみせたところであり、この流れの中で更なる教化活動の充実が期待されるところであります。

今回の人事では、ご門徒が幹部スタッフに登用されており、これまで以上に門信徒側の意志の反映が期待されるところであります。

赤羽地域教化センターの課題

センター長　浅野　怜

崇敬区域に密着した教化事業を構築するため、組織化を図るとともに人材と財源の確保という重要な課題を抱えながら、従来の別院の役割をも包含しつつ、地域教化センターとしての機能を発揮してきました。

早いもので、三ヶ年の歳月が過ぎ四月一日から新体制で、これまで築いてきた教化体制を継承しつつ、さらに充実した事業を展開すべく、新しいスタッフは意欲に燃えています。

折りしも、岡崎教区では来年四月一日を期して、中央教化センターを設立し、所轄の四別院をそれぞれ「地域教化センター」として発足させ、地域の要望に応えるべく地域の特色を生かした教化事業を遂行できるよう機構改革を推進しています。

このような趣旨を反映した教化事業を実施すべく、センター長・主幹を軸に各部のスタッフが連係を取り合い、これまで以上の成果を納めるよう、崇敬区域の御寺院と御門徒の皆さんのお力添えをも得て、頑張っていきたいと考えています。

教化センター組織

センター長　浅野　怜　第14組・専願寺
主　幹　三浦　真教　第9組・良興寺

儀式部
部　長　大渓　正明　第9組・正向寺
副部長　小栗　貫次　第12組・玉照寺
○石川　嘉弘　第14組・光専寺
大河内　哲　第14組・常瑞寺
織田　顯慶　第8組・宿縁寺
佐々木真哉　第11組・浄覺寺

伝道部
部　長　泉　敬祐　第11組・聖運寺
副部長　法輪　篤　第13組・慶徳寺
青木　馨　第14組・蓮成寺
石川祐美子　第10組・法圓寺
木村　斉　第9組・福泉寺
林　良照　第10組・妙専寺
松平　昌三　第12組・浄徳寺
○門　徒

暮らし部
部　長　○辻　正三　第14組・安専寺
副部長　伴　仁志　第13組・良宣寺
鈴木　土平　第10組・香嚴寺
圓山　慧之　第8組・浄願寺
○服部　敏治　第13組・養林寺
藤原　知貴　第9組・源徳寺
山背　隆文　第11組・善福寺
松平佐智子　第12組・浄徳寺

広報部
部　長　田村　徳明　第14組・等覺寺
副部長　○石川　鴻英　第14組・専願寺
浅野眞理子　第10組・蓮正寺
稲垣　智　第13組・安休寺
雲英　真人　第9組・正覺寺
櫻部　開　第12組・通西寺
○鈴木　恭子　第11組・正念寺
平野　知　第8組・福正寺
本多　友明　第13組・教榮寺
周島　享

充実の第二期を目指して

主　幹　三浦　真教

この度、は別院教化センター主幹を拝命しからずも赤羽設立当初は模索状態であった教化センターは、第一期の三年が経過した今日では、課題が残されているものの、スタッフ各位の努力によりその態勢が整ってきたものと考えています。

新しいスタッフも決り、四月から第二期三年間の活動が始まりました。

前任者の取組みを継承するなかで、蓮如上人が勧められたように「話し合い」を大事にしたいと思います。

色々な方々に出入りしていただくことで、教化センターとお寺やご門徒さんとのつながりが深まるでしょう。そのなかで、地域に親しまれ必要とされる事業が、今まで以上に推進されることを願っています。

崇教区域である西尾・碧南九十五ヶ寺を取りまく環境も、人々の生活スタイルや考え方も大きく変化する社会状勢のなかで、教化センターの活動がご門徒さんの日々の生活において、少しでもお役に立てればと願い微力ながら頑張って行く所存です。皆様方のご支援・ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

言葉のひびき

伝道部長　泉　敬祐

聖教を披くも、文字を見ず
ただ言葉のひびきをきく
金子大榮「親鸞讃歌」より

お聖教を読んでも先生のお話を聞いても、表面的な内容（文字）の理解に終始し、そこに込められた深い願い（言葉のひびき）に出遇えない人間の姿を教えられる言葉です。そして厄介なことに、私たちは「言葉のひびきを聞かなければ」と力むほど、ますます「文字」に囚われていくのです。皆さんとともに聴聞を重ねるなかで、「文字を見る」ことに執着する自分の姿を見つめていければと思います。

出来ることから始めよう

儀式部長　大渓　正明

今朝もまた　手足が動き
目が見える
ああ有難き　この身このまま

朝、目が覚めたら、「新たないのちをいただきました」とお内仏の前で、朝のお勤めをする。

夕べには、「今日も一日ご縁をありがとうございました」とお礼を言う。

お念仏を申し、聞法につとめ、朝夕のお勤めをする。

出来ることから始めましょう。

儀式部長を拝命致しました。精一杯努めて参る所存であります。

ご意見とご協力を！

暮らし部長　辻　正三

引き続き暮らし部を担当させていただきます。親鸞聖人が善導大師を称えられた和讃に

真宗念仏ききえつつ
一念無疑なるをこそ
希有最勝人とほめ
正念をうとはさだめたれ

というものがありますが、寺や本山でも私をはじめ真宗門徒は真宗念仏消えつつあるような気がします。家庭の暮らしに仏法・念仏を取り戻すにはどうしたら？？？

幸い暮らし部はどんな取組みもできる処です。いろんな事を試みます。ご意見とご協力を！

就任にあたって

広報部長　田村　徳明

この度、思ってもみなかった赤羽地域教化センター広報部長を仰せつかりました。

情報化社会の今日では、何れの組織においても広報活動は大きなウェートを占めております。

赤羽別院の情報を崇敬区域内ご寺院・ご門徒さんをはじめ、多くの方々に向けてお届する任務の重さを痛感しておりますが、皆さま方のご支援とご鞭撻を糧にして、スタッフ一同全力を挙げて取り組んで参りますので宜しくお願いいたします。

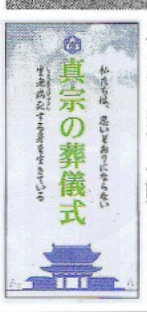
東日本大震災　災害義援金を拠出

赤羽別院では、去る3月11日に発生した東日本大震災により被災された方々に対する義援金三万円を拠出し、御門徒有志の方々から寄せられた御芳志と併せ、岡崎教務所を通じお届けしました。

葬儀リーフレットを発行

近ごろ直葬といって、葬儀式を行わず直接火葬場へ亡き人を運び、だびに付すということが都会を中心に広まっている。

要因として、無縁社会ということもあるが、それだけでなく葬儀の意味が伝承されていないことがある。この度「真宗の葬儀式」というリーフレットを作成した。是非ご一読下さい。



お寺の掲示板

生のみが
我らにあらず
死もまた
我らなり
第11組　清沢満之
正念寺

こころをカタチに残したい
永遠の絆づくりのお手伝い。

仙台屋仏檀堂

仏壇・仏具・墓石

刈谷本店　(0566)24-7841
阿久比店　(0569)48-3733
半田店　(0569)24-8550
東海店　(052)689-7311
家具調仏檀 想　(052)709-2051
URL　http://www.sendaiya.co.jp

宗祖親鸞聖人750回御遠忌円成

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要は、本年3月から5月の間に3回の法会が厳修されました。

折りしも、3月11日東北地方を襲った東日本大震災による、大勢の方々の生命をはじめとした甚大な被害の発生に鑑み、その内容の一部が変更されましたが、全国各地からたくさんの御同行が本廟・東本願寺に参詣され、御遠忌はとどこおりなく円成しました。

「今、いのちがあなたを生きている」を御遠忌テーマに掲げ、宗門を挙げて取り組んできた宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要は、4ヶ年余りの歳月をかけて大修復がなった御影堂において厳修されました。

3月に行われた第一期法要は、大震災がもたらした激甚災害の現実を受けとめ「被災者支援のつどい」としての法会に改めて執行されました。

ここでは、御門首をはじめ全ての出仕者が外陣にお着きになられたのをはじめ、その内容も大幅に変更される異例の法会となりました。

4月の第二期法要は、4月19日から28日までの10日間にわたり、被災者支援のつどいの精神を踏襲し、法要次第や荘厳の一部を変更したうえで厳修されました。

第三期法要は、5月19日から10日間開催されましたが、前期法要と同様その次第や荘厳の一部を変更したうえで、予定されていた雅楽・音楽法要・稚児行列等を中止し、また、内陣出仕者の衣体装束も変更されたうえで厳修され、御影堂内やお白洲に溢れんばかりの御同行の、数珠を片手にした真剣な眼なざしでの声明とともに円成いたしました。

（石川記）

ゴボちゃん HOUSEN

御坊俳壇

校庭に高々と見ゆ松の花　鳥居みよ子
野遊びの影濃く連れて橋渡る　神取　和沙
見上げたる大樹の芽吹き空碧し　名倉美枝子
墳山は芽吹き盛りや風抜ける　近藤　章枝
野遊びの歩み止まりし橋あたり　中根佐代子
嫁ぎ来て仰ぐ五十年門桜　近藤　貞子
穏やかな余生願ひぬ花御堂　石川しづ子
風吹し御坊の庭の大銀杏　水頭うた子
藤の香に引き寄せらるる御坊さま　信川　芳枝
母と子の遊ぶ寺苑や花は葉に　三浦　貞葉

岡崎教区御遠忌讃仰事業
真宗本廟と私をつなぐ一日

五月晴れの五月二日、岡崎教区御遠忌讃仰事業が開催された。この事業は三年前から取り組みをした、岡崎教区を挙げての大プロジェクトであり、二千人の寺族・門徒が本廟に足を運ぶことを目標とし、多彩な行事が展開された。

いつもは参詣するだけの本廟であるが、この日はみんなが主役であり、スタッフと参詣者が一体となり、いわば全員が我が岡崎教区の念仏相続のありようを力強く表現するものとして実施された。

午前九時の絵解き法話を皮切りに、讃仰茶会・和太鼓・紙芝居法話などが続き、最後に御影堂において讃仰勤行が行われた。

白洲内に設けられた舞楽台での宗祖御絵伝絵解き法話では、本澄寺住職・梛野明仁師の哀愁漂う琵琶の音を白洲一杯に響かせ、真に宗祖の御遠忌に相応しいものであった。

梛野師による絵解法話

涉成園での讃仰茶会には御門首夫妻が臨席され、限定一千枚の茶券が完売となり、本廟周辺では、和服姿でシャトル人力車に乗る女性の晴れ姿があちこちで見受けられた。

この事業のメイン・イベントである声明と合唱のコラボレーションによる讃仰勤行は、御影堂において営まれた。ここでは、一五五名の合唱団の歌声と、二千余名の参詣者の同朋唱和が堂内に満ち溢れ、真宗門徒であることの慶びをあらためて実感した。

石川嘉弘教区門徒会会長の閉会挨拶では「真宗門徒として思い出に残る御仏事としての御勝縁の一日」の言葉を聞き、本山が勤める御遠忌とは異にした宗門を挙げての御遠忌・門徒が勤める御遠忌に一歩近づくことができたと胸が一杯になる思いであった。

（浅野眞記）

声明と合唱のコラボレーション

御門首夫妻讃仰茶会に

新緑の映える涉成園で、讃仰行事の一つとしてお茶会が催された。裏千家席は閲風亭、宗徧流は臨池亭・滴翠軒において約千名の参会者で賑わった。

裏千家席では御門首夫妻と鵬雲斎千玄室大宗匠をお迎えして、厳粛の中にも和やかなひと時となった（宗徧流席にも御門首夫妻が参席された）。

今から一五〇年前の文久元年（一八六一）、六百回御遠忌の年に裏千家玄々斎宗室が、この場所で厳如上人に対しお茶会を催されたことに因む。また宗匠の兄渡辺規綱（又日庵・尾張徳川家家老）は、東本願寺きっての大名門徒で、茶道を極めた。ともに三河奥殿藩主松平乗友の子で、厳如上人も玄々斎の門人として、お茶で結ばれるこの三師の縁は深く、三師を偲んだ今回の茶会となった。

大宗匠を中に御門首夫妻

茶席では厳如上人はじめ、現如・彰如（句仏）上人や玄々斎・又日庵ゆかりの道具が使われ、別に展観席では厳如上人筆の絵画や、歴代上人の手になる絵や茶道具が展示された。御門首夫妻は、熱心にこれらの道具の説明を聞き入っておられた。

宗徧流席も、床に前門首の軸や句仏上人の茶杓が使われ、歴史に残る茶会となったとも言える。

第14組・蓮成寺住職　青木　馨

御遠忌法要に団体参拝して

岡崎教区第8組では、去る4月27日バス5台で早朝6時すぎに西尾を出発し、途中で琵琶湖畔の三井寺にお参りをしてから東本願寺に赴きました。

人気の着ぐるみ・蓮チャンと鸞恩クン

以前にお参りした時は御影堂の修復工事中で、全体の姿を見ることができず、高い屋根をそばで見学したとき、その大きさに驚いたのを思い出したが、伽藍を見てその見事なことに驚嘆しました。

私たちが参拝したのは結願速夜の法要でした。

親鸞聖人がお亡くなりになってから、七五〇回もの年忌法要が延々と受け継がれてきた信仰の深さに感銘します。今年はさらに五十年ごとのお勤めに参拝出来た巡り合わせに感謝しています。

読経の間、参拝者は数珠を手に真剣な表情でお参りをしていました。

その姿を眼のあたりにして、宗祖親鸞聖人の御真影にお参りすることがこんなに尊いものなのかと感じた次第です。

第8組・福正寺門徒　渡辺　久恭

Yes! 高須クリニック
美容外科・形成外科・美容皮フ科・泌尿器科・歯科
院長　高須克弥
●年中無休　●予約制
赤坂 地下鉄千代田線 赤坂駅5番A出口すぐ
〒107-0052 東京都港区赤坂2-14-27 国際新赤坂ビル東館12F
TEL.03-3587-2061
歯科直通 03-3583-9244
電話受付 9:30～22:00 0120-5587-15
歯科専用 10:00～19:00 0120-4180-86

うなぎ割烹
みかわ 三水亭
愛知県西尾市一色町坂田新田西江95-10
TEL. 0563-72-8817
営業時間 AM11:00～PM2:00（オーダーストップ）
PM 5:00～PM8:00（オーダーストップ）
水曜定休
P 完備 観光バス10台・乗用車50台
詳しい情報はインターネットで 三河淡水グループ 検索

■■■カルチャーウォーク・その9■■■

三河一向一揆の拠点 岡崎市針崎町 勝鬘寺を訪ねる

名刹・寂光山勝鬘寺は、本證寺・上宮寺とあわせ三河三ヶ寺のひとつである。三河一向一揆の拠点となった当山は、今もその姿を留め威容を誇る本堂・庫裡・白壁の外屏や法宝物等当時を偲ぶに充分なものが残されている。岡崎市針崎町に同寺を訪ね、第29代住職・安藤哲師から、寺の由緒などについて貴重なお話を伺った。

勝鬘寺は、親鸞聖人が矢作宿において教化の折に弟子となった了海（信願坊）が、正嘉2（一二五八）年に現在の岡崎市赤渋町に道場を開いたのが始まりで、矢作川の水難から逃れるため、明応5（一四九五）年針崎町に移された。

その後は、三河真宗寺院として発展し、本願寺第5代綽如上人の玄孫の了順が入寺して精力的な布教活動に努め、尾張・美濃にも末寺集団を形成していった。

当山は、三河では最初の本願寺血脈寺院となった。

永禄6～7（一五六三～六四）年におこった三河一向一揆では、岡崎城に最も近い針崎は激戦の中心地となった。山は兵火にかかり大伽藍を焼失し、13代住職了意は国外追放となり、信州井上（長野県須坂市大字井上）に逃れるところとなった。

その後、当山が再興されたのは20年余後の天正13（一五八五）年に寺院再興の安堵を得てからのことである。

寺院再興とともに、末寺・門徒の拡大が進み道場の数は百数十ヶ寺に及んだ。

本願寺の東西分派時には、教如上人に追従して東派に属し、歴代の住職・門徒に支えられ今日に至っている。

また、当山は京都所司代として有名な板倉家との縁りが濃く、勝重の両親など3人の肖像画が残されている。

なお、多くの法宝物は岡崎市美術博物館に保管を依託しているが、本堂横に展示される阿弥陀如来像は、別名「柳堂本尊」と伝えられるもので、親鸞聖人が帰京の折、柳堂で説法して三河を離れようとした時、別れを惜しんで涙を流した如来像といわれている。

この他に、御朱印等々を拝観させて頂き、歴史を刻みつづけるお寺の重みをひしひしと感じました。

（間島記）

白壁越しに本堂を望む

勝鬘寺の高さ数米にも及ぶ強固な白壁に囲まれた境内に、百騎を超す門徒武士や僧兵がたてこもって戦ったが、永禄7年1月、土呂・針崎の一揆方と家康との激戦があり、当

69年ぶりに 梵鐘 故郷安専寺へ還る！

本年1月26日、第14組安専寺に古い梵鐘一口が運び込まれた。

この鐘は、235年前に9代前の住職円説師の依頼により、現在の西尾市平坂町の鋳物師太田庄兵衛正次が鋳造したもので、太平洋戦争末期の昭和17年に兵器の材料用として供出を求められ寺を離れたが、69年の歳月を経て帰郷したものである。

寺を離れて36年後の昭和53年の暮、前住職安藤文夫師のもとに「この鐘が兵器化を免がれ、埼玉県熊谷市の大正寺の鐘楼に吊り下げられている」という知らせが入った。

師は、鐘が無事であることを知りたいへん感激したが、その時は返還を求めるには至らなかった。

それから30年を経た平成20年の秋、師は旅路の途中に大正寺を訪れたが、そこで鐘が同県深谷市の善法寺に譲られていることを知り、その足で同寺を訪ねて鐘と感激の対面を果すに至った。

これを機縁として、善法寺では鐘楼と鐘を一新する機運が高まり、昨年の11月にこれが実現し、彼の地に見事な音色を響かせ続けたこの鐘は、その任を了え無傷のまま故郷安専寺に戻ることが叶った。

この梵鐘は、本堂入口土間に由緒書を添えて、参拝者が手で触れられるよう八角台座の上に安置されている。

安藤智彦住職は「兵器になるはずだった梵鐘に触れることで、平和について考えるきっかけにして欲しい」と語る。

（櫻部記）

戻ってきた梵鐘

がんばろう日本！

東日本大震災罹災お見舞 早期復興をお祈りします

門徒の声

「さんこう」の教え

私は、肉親とは縁が薄いのか、家から送りだした仏は多い。従って、おかげで正信偈だけは若いころから空覚えをしていたが、教義も深めず、読経中の心が空になる心境の心地よさに浸っているだけであった。

難局に接すると「南無阿弥陀仏」と口にする勝手のよさ、それでいて、すがらねばならない虚しい心の内があるのだが、もどかしさは感じたけれどそれより踏み出せない自身がある。

そんな私でも、ひとつ教えられた「さんこう」という教え、即ち、健康、観光、信仰という下に「こう」という文字がそれぞれつく。

健康で、観光に行って、行った先の神社仏閣を巡ったようなときには、そっと手を合わせて、健康で出かける身の幸せを感謝しなさいという、信仰とまでいかないにしても、健康なのが当り前というおごりを戒め、悟らせる言葉に胸を打たれ一個の信条としている。

無論「南無阿弥陀仏」と自然に称える。私の信仰と呼べる言葉は「さんこうの教え」が導引なのだ。

最近知った蓮如上人の言葉に「当流には木像より絵像、絵像よりは名号というなり」と、名号こそがご本尊であるとの教えがあるというではないか。

深く知らずに、一歩踏み出している今日このごろの自分に気づいている。

合掌

第11組・恵教寺門徒　小島　悦行

◆仏事Q&A◆

Q 「葬儀やお通夜のときには、赤い珠のお念珠や紫の房のお念珠は避けた方がよい」と聞いたことがあります。どのようなお念珠でお参りしたらよいのでしょうか？

A お念珠の色についての決まりはありません。私たちの気持として、派手な色は控えた方がよいということでしょう。

男性は一輪の念珠で、女性は一輪のもの二輪のもの、どちらでも構いません。

一輪のものは房を下に、二輪のものは房を上にして左手に持ちます。合掌するときは、念珠に両手を通し、親玉を親指にはさみます。二輪の場合の房は左側に下げます。

お念珠は、お参りするための大切な仏具ですので、畳や床に直接置かないように気をつけたいものです。

（小栗記）

一輪の念珠

二輪の念珠

人事

責任役員に 都築馨氏就任

昨年11月にお亡くなりになった当赤羽別院責任役員・高須登代子女史の後任として、第13組養林寺門徒・都築馨氏に就任いただきました。

都築氏は「永い歴史を誇る由緒ある赤羽別院であり、責任の重さをひしひしと感じております。浅学非才でありますが精一杯勤めさせていただく所存です」と話されました。

辞任 列座見習 壹郷有二

昨年10月、当赤羽別院の列座見習に就任した壹郷有二氏は、このたび同氏の都合により退任されました。

氏は「短い間でしたが大変お世話になりました。赤羽別院の更なる発展を願っております」と話されました。

編集室

お知恵をお貸し下さい

平成8年10月に創刊された赤羽別院の広報新聞「赤羽御坊」は、これまでに26回の発行を重ねてまいりましたが、編集スタッフは教化センター人事により、一部に入れ替えを行ったうえで、第三次の編集体制を整え、心機一転の出発を致したところであります。

赤羽別院や崇敬区域内のできごと等を、崇敬区域内にとどまらず、全国の別院に向けて発信する唯一の手段である赤羽御坊紙は、第16号からはカラー印刷に模様替えをしてお届けしていますが、その内容等について、ご覧いただいている方々からみてどうなのか？と常に疑問を抱きながらの取組みとなっているところであります。

今後、より身近かな新聞に近づけるため、皆さま方のご意見やご要望をはじめアイデアの提供と、積極的な投・寄稿を心待ちに致しております。

なお、スタッフ以外にも、マンガのHOUSEN師・題字の鳥居伸子様・カット絵の新家ゆり子様には引続きご協力をいただいて参ります。

赤羽地域教化センターウェブ

http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/

仏事で困ったら…

携帯からのアクセスはQRコードから

お寺の法語掲示板をみてみよう

御懇志披露

一、物品寄贈
　座布団二〇枚　鈴木千晶様
　同　二〇枚　鈴木琦夫様
　同　一〇枚　池田純司様

一、作業奉仕
　樹木剪定一式　高須造園様

一、赤羽御坊新聞懇志
　厳西寺ご同行

貴重なご懇志をありがとうございました